

# 令和3年度学校自己評価システムシート (県立寄居城北高等学校)

目指す学校像	一人ひとりが個性輝く 元気な学校
--------	------------------

重点目標	1 系列の特性を生かした教育を実践し、確かな学力の育成と資格の取得に取り組む。 2 基本的な生活習慣の確立を図り、部活動や学校行事などの特別活動を通して規律ある態度を身につけ、心身ともに健全な生徒の育成に努める。 3 「産業社会と人間」での学習を通して、進路意識の醸成を図り、生徒の適性や希望に応じた進路実現に努める。 4 積極的な情報発信を通して、保護者・地域の方に感動と共感を与えることのできるシステムを構築し、地元を中心に意欲ある生徒の確保に繋げる
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<b>【現状】</b> 落ち着いた雰囲気の中で授業は展開されており、受講態度やマナーは身に付いている。将来を見据えて頑張る生徒もいる。 <b>【課題】</b> 基礎学力の定着とともに学習意欲の高い生徒への更なる伸長に向けた指導方法の改善と工夫、WEB活用授業等、社会状況に対応した新たな情報機器の活用の研究が必要である。	・各教科における指導方法の改善と工夫	①新教育課程導入に向けた指導方法の改善と工夫に向け、教育課程委員会や授業公開週間や教科別授業検討会、職員研修会を活用する。 ②授業を軸に基礎学力の定着とアクティブラーニングの視点に立った授業改善で思考力、判断力、表現力の育成に向けて取り組む。 ③英検、漢検、商業科検定試験等への受験を推奨し、目標達成を学習意欲の向上に繋げる。	①教員相互の授業参観者数が85名以上あり、教科別検討会の実施回数が3回以上行われたか。 ②成績不振者数及び成績優良者数、授業理解度、自習室の利用者数や保護者アンケートでの学校満足度が昨年より向上したか。 ③各種の検定試験の受験者数及び合格率が昨年度より向上したかどうか。		
2	<b>【現状】</b> 生徒の基本的な生活習慣が確立されている。多くの生徒が学校生活に積極的に取り組んでおり、礼儀正しく素直な生徒が多い。 <b>【課題】</b> 挨拶や整容指導等を通じた社会人基礎力の育成と徹底には、更なる工夫が必要である。指導に対する保護者の理解と協力を得る工夫が必要である。部活動加入率向上策も急務である。	・生徒の自己管理能力と人間力向上に向けた取り組み	①部活動への参加を推奨する。各部の成果を積極的に生徒へ周知する。 ②基本的な生活習慣の確立を全教職員で取り組む。 ③マナー学習での指導が一層効果的に浸透するように工夫するとともに、保護者の理解と協力も得る。 ④地域ボランティアへの参加を推奨する。	①部活動加入率が前年度より増加しているか。 ②欠席、遅刻した生徒数が年間を通じて昨年より減少したか。 ③指導件数の推移や指導方針に対する保護者の理解度が向上したか。 ④生徒の参加傾向や事後アンケートで肯定的な回答が半数であったか。		
3	<b>【現状】</b> 多様な進路希望をもつ生徒に、進路指導部及び年次団が連携して指導した結果、進学・就職率は良好であった。 <b>【課題】</b> 1年次の産社・総探の成果を2、3年次以降に継続させる工夫が必要である。インターシップに代わる本校の新たな進路事業の核の創出が必要である。保護者への一層の働きかけで本校の進路指導について理解と協力を得たい。	・主体的で積極的に進路選択ができる能力と判断力の育成に向けた取り組み	①「進路の手引き」を全年次で系統的に活用して、3年間を見通したキャリア教育に繋げていく。 ②分野別ガイダンスや講演会、模試などを通じて進路選択能力の向上に繋げる。 ③進路指導部、年次団で連携協力してキャリア教育に取り組む。 ④小論文、面接指導、補習の徹底で生徒の進路ニーズに応えていく。	①卒業生の進路達成率、生徒や保護者対象の進路指導アンケート結果が昨年と比べて向上できたか。 ②分野別ガイダンスや講演会などが計画的に実施できたか。生徒対象の事後アンケートで肯定的な回答が多数であったか。 ③新たな組織形態での実施が効果的であったか。生徒の満足度は肯定的であったか。 ④各種の取組に参加した生徒数。		
4	<b>【現状】</b> 北部地区の大幅な中学校卒業生の減少を受け、様々な広報・生徒募集活動を展開し、成果を上げている。 <b>【課題】</b> 本校の教育活動を説明会等を通じて積極的にPRすることで、生徒募集に繋げたい。時期、時間帯、手法も含めた効果的な説明会配置の検討が必要である。また、地域社会や大学等と連携を更に強化することで、本校の特色化と活性化に繋げたい。	・積極的な情報発信で開かれた学校づくりに取り組む	①中学校訪問や学校説明会等を適時適切に取り組み、本校の教育活動を積極的にPRする。 ②近隣小中学校との合同企画、高大連携を継続して実施して連携を深める。 ③寄居町を中心に地域のイベントに積極的に参加協力して生徒の社会性向上に繋げる。 ④HPや城北ニュース等を用いた情報発信を定期的実施する。	①中学生と保護者のニーズに即したホームページを活用する等新たな取り組みも行えたか。また、受験生が募集定員を超えたか。 ②各種の取組に参加した生徒数と高大連携事業が有効的で効果的に実施できたか。 ③ボランティア活動を通して地域社会に貢献できたか。生徒の満足度は高かったか。 ④定期的な更新と情報発信ができたか。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	